

こども安全対策分科会

1	居心地の良いコミュニティづくり
	<p>関連する達成目標</p> <p>ア 自治会町内会による盆踊り、運動会などのイベントへのこどもたちの参加や、ボランティア活動への参加機会の拡大をはかります。【自治会町内会、小・中学校等】</p> <p>イ 「よこはま学援隊」等への参加者を増やすなど、こどもの安全確保のための地域ぐるみの活動をより充実させます。【自治会町内会、小・中学校等】</p> <p>ウ 「こども110番の家」の普及を進め、こどもの安全に関する保護者への研修会を実施します。【PTA連絡協議会】</p>
	<p>【25年度実績】</p> <p>ア 子どもが楽しめるイベントを企画・開催し、幅広く広報を行うことで子どもの参加機会の拡大を図った。</p> <p>イ よこはま学援隊を中心として、地域によるこどもの見守り活動を実施 よこはま学援隊：約2400人（参考：H23年度2160人）</p> <p>ウ 「こども110番の家」登録募集案内を保護者を対象に配布 自治会町内会を通じて新規登録を募集 こども110番の家登録軒数：2134軒（参考：H22年2134軒）</p>
	<p>【自己評価】</p> <p>ア 地域と学校、団体などの連携により、地域で行われる様々なイベントへの小中学生の参加の取組が進められ、地域と子どもたちの交流の機会が増えている。</p> <p>イ よこはま学援隊を中心とするこどもの見守り活動が各地域で展開されており、参加者も着実に増加している。見守り活動の参加者は児童・生徒の保護者が多いが、それ以外にも広く活動の重要性を伝え、活動への参加を呼びかける必要がある。</p> <p>ウ こども110番の家を中心とした、こどもの安全確保の取組は継続的に進められているが、新規登録軒数が伸びていない。</p>
2	こどもが生き生きと遊べる環境づくり
	<p>関連する達成目標</p> <p>ア こどもが安心して元気に遊びまわられるよう、地域の協力のもと、校庭、園庭、公園の芝生化を推進します。【自治会町内会、保育園、小・中学校等】</p> <p>イ 「自然観察の森」等豊かな自然を活用した栄区ならではのこどもの健康づくりに取り組みます。 【自治会町内会、保育園、幼稚園、小・中学校等】</p> <p>ウ 公園、保育園、幼稚園、小・中学校等の諸施設・遊具等の管理・点検を徹底し、</p>

	事故の発生を防ぎます。【保育園、幼稚園、小・中学校等】
	<p>【25年度実績】</p> <p>ア 保育園1園、公園2箇所の全部または一部芝生化を実施 (H24年度までに小学校2校実施済)</p> <p>イ 小学校や子ども会を中心とした遠足などの「自然観察の森」を活用したこどもの健康づくりの取組や、自然の魅力を体験するイベントなど、子どもが自発的に参加できる MISIA の森プロジェクトなどを展開 (MISIA の森プロジェクト：3回イベント 約4600人、自然観察の森来園者40000人 [1月末])</p> <p>ウ 施設の管理に起因する事故ゼロ 点検実施回数 学校・保育園：年1回 公園：年4回</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 新たに小学校1校、保育園1園、公園2箇所の全部または一部を芝生化し、特に、上郷保育園では芝生化エリアの拡大を行い、遊具土台部分のコンクリートを覆うなど、事故防止の一助となっている。地域との協力関係を築いて管理体制を確立することが普及にあたっての課題。</p> <p>イ 栄区の魅力である豊かな自然を魅力を伝える MISIA の森プロジェクトを中心として、自然を楽しむイベントの積極的なPRを実施し、子ども達が自然を楽しむ取組を地域と連携して進めることができた。</p> <p>ウ 遊具点検については、制度化して適正に行われている。</p>

3	こどもの基礎体力・運動能力向上の取組、生活習慣の改善
	<p>関連する達成目標②</p> <p>ア 各小・中学校でプログラムを作成・実施します。(体力向上1校1実践運動)【小・中学校】</p> <p>イ こども自身が身を守ることのできる力をつけるため、事故防止教室の開催や危険予知向上の指導等を行います。【子育て支援団体連絡会、保育園、幼稚園、小・中学校】</p> <p>ウ 青少年指導員協議会等と連携し、子ども会ごとに危険予知トレーニングを実施します。 【子ども会連絡協議会】</p> <p>エ 放課後、こどもの指導に当たるスタッフの安全教育を実施します。【はまっ子・キッズ連絡会等】</p> <p>オ こどもの健康づくりに不可欠な食生活をよりよいものにするため、食生活等改善推進員(ヘルスマイト)と学校等が連携し、食育講座等を行います。【食生活等改善推進員会、小学校等】</p>

	<p>【25 年度実績】</p> <p>ア 学校や児童・生徒の特性に合わせたプログラムを全校で実施 (横浜市体育協会と連携し、芝生化された校庭で季節に合わせたスポーツを実施など) スポーツ推進委員や自治会町内会等で構成する実行委員会で中学校対校駅伝を実施 (3 月予定)</p> <p>イ 安全に係る指導を実施：全校 園児向け交通ルール出前講座を実施：保育園 1 園 訪問運動指導を実施：保育園 4 園 各 5 回 計 20 回実施</p> <p>ウ 子ども会イベント実施時に危険予知トレーニングを実施：258 人参加</p> <p>エ はまっ子・キッズ連絡会により、市民防災センターを利用し、災害時に子どもの安全を確保するための研修を実施</p> <p>オ 食生活等改善推進員を中心に「朝食をたべよう」など、食生活・食育に関する講座を実施：3 校</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 取組が制度化されており、各校の特性に合わせ、着実に実施されており、昨年度から新たに実施した中学校対校駅伝も地域に定着してきている。</p> <p>イ 各校・各園において、こども自身が身を守るための取組が実施されている。</p> <p>ウ KYT は子ども会の活動にすでに定着しており、イベント実施時に合わせて実施されることで、着実にこどもたちの受講が増加している。</p> <p>エ はまっ子・キッズ連絡会では、子どもの安全確保は特に重要なものと認識され、スタッフの安全教育が実施されている。</p> <p>オ 実践数は多くはないものの、実施校ではしっかりとした食育の取組が行われている。</p>
--	---

4	<p>こどもを犯罪から守るコミュニティづくり</p> <p>関連する達成目標①②</p> <p>ア 犯罪や非行を生まない地域をつくるため、防犯パトロールや防犯キャンペーン等の啓発活動を積極的に進めます。【自治会町内会、防犯協会、消防団、保護司会、更生保護女性会、少年補導員連絡会、小・中学校等】</p> <p>イ 栄区情報配信サービスによる防犯情報メールや、「ピーガルくん子ども安全メール」の登録会員を増やします。</p> <p>ウ サイバー犯罪からこどもを守るため、学校でのサイバー教室開催等の取組を進めます。 【少年補導員連絡会】</p> <p>エ 保護司等の人材確保のための取組を検討・実施します。</p>
---	--

【25年度実績】

- ア 地域と連携した夏休み中のパトロールなど、各団体で実施
小学校への学援隊参加呼びかけ 13校
こども110番の家登録呼びかけ 23回(保護者会、自治会町内会等)
小学1年生を対象とした防犯ブザーの配布(1065個)
中学生を対象とした防犯ポスターコンクール(安全安心まちづくりフォーラム)
- イ 防犯情報メール登録者数:863名(H26年1月1日現在)
- ウ サイバー教室実施:11小中学校
- エ 人材確保のため、呼びかけ等を実施:現人員18名

【自己評価】

- ア 各団体で、防犯パトロールが継続的に実施されている。また、防犯に関する啓発活動を実施している。各団体の取組を継続していけるよう、人材確保等の取組が必要。
- イ 防犯情報メール登録者は減少傾向にある。園児・児童生徒の保護者に普及するよう、学校やPTAを通じた働きかけを検討する。
- ウ 区内の約半数の小中学校で教室を実施されている。また、受講した児童・生徒・教師・保護者からは、サイバー上の脅威・安全確保の必要性等がよくわかった等の好評を得ている。
- エ 呼びかけを継続しているが、目標数の人員確保には至っていない。人材確保の取組が、現保護司の人的つながりに頼ったものになりがちであるため、人材確保のための検討会議の設置を検討。

スポーツ・余暇安全対策分科会

1	すべての区民を対象とするスポーツの推進
	<p>関連する達成目標①</p> <p>区民の心身の健康づくりと相互交流を目的に、区民大会やスポーツイベント・教室等を開催するとともに、ロードレース大会やスポーツフェスティバルの参加者拡大等、スポーツのより一層の推進を図ります。また、区民のスポーツ実施状況を継続的に調査し、実施頻度を把握します。</p> <p>【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツクラブ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会、子ども会連絡協議会、交通安全協会、交通安全母の会連絡会】</p>
	<p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄区体育協会各競技団体主催の各競技の区民大会、教室 ・栄区体育協会主催の「スポーツ・レクリエーションフェスティバル」（10月開催 6,461名参加） ・栄区体育協会主催の「第10回栄区民スポーツフェスティバル」（11月開催 2,850名参加） ・栄区民ロードレース大会実行委員会主催の「第24回栄区民ロードレース大会」（1月開催 1,328名参加） ・その他、自治会、町内会主催の「運動会」「スポーツ大会」（5月から翌2月までに各地区で実施） <p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、各団体が様々な年代を対象に、様々な種目の区民大会やスポーツイベント・教室等を開催し、スポーツをする機会の創出に取り組んだ。また、中でも大規模な大会である「スポーツ・レクリエーションフェスティバル2013」、「第10回栄区民スポーツフェスティバル」、「第24回栄区民ロードレース大会」では、いずれも前年度よりも多くの方が参加した。 ・上記のスポーツイベントへの参加が、継続的なスポーツの実践につながっているか把握することが必要。
2	こども向けのスポーツ活動の実施
	<p>関連する達成目標①</p> <p>こども向けのスポーツ活動を推進し、体力・運動能力向上を図ります。また青少年指導員協議会が中心となり、危険予知トレーニング等を活用した事故・けが予防に関する啓発活動を、子ども会等と連携して新たに実施します。</p> <p>【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツクラブ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会、子ども会連絡協議会、小・中学校】</p>

	<p>【25 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第 10 回栄区民スポーツフェスティバル」や区民まつりでの「スポーツ体験広場」などにおいて、各団体が連携し、こどもが様々なスポーツを体験できる機会を創出(小中学生の参加：約 1,951 名) ・けが予防の体操である「さかえっ子体操」を作成、普及啓発用 DVD を作成 ・青少年指導員協議会の研修会(年 2 回実施)において、レクリエーション活動における危険予知トレーニングの研修を行い、事故・けが予防に関する啓発を推進(「1 こどもの安全」に記載) ・スポーツ推進委員や自治会町内会で構成する実行委員会主催の「第 2 回栄区中学校対校駅伝大会」(3 月開催 120 名(20 チーム×6 名)参加予定)
	<p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体のイベントなどにおいて、こどもが様々なスポーツを体験できる機会を創出した。また、関係団体と連携して「さかえっ子体操」を作成し、区民まつりなどで実施するとともに、普及啓発用 DVD を作成した。 ・現状の取組では、中学生や高校生へのアプローチが薄く、中高生へ分科会の活動を波及させる必要がある。

3	高齢者向けのスポーツ活動の実施
	<p>関連する達成目標①</p> <p>高齢者の健康づくりを目的に、新たに保健活動推進員や食生活等改善推進員(ヘルスマイト)等と連携した取組を実施します。また、シニアクラブや自治会町内会とスポーツ団体との連携により、健康づくりウォーキング等の高齢者が気軽に参加できるスポーツ行事を実施します。</p> <p>【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツくらぶ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会、シニアクラブ連合会】</p>
	<p>【25 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が気軽に参加できるスポーツイベントとして、てくてくウォーク栄実行委員会主催の「てくてくウォーク栄」(2 月開催 313 名参加) ・栄区シニアクラブ連合会主催のグラウンドゴルフ大会や輪投げ大会など様々なスポーツイベント(年 5 回開催 参加者約 300 人) ・自治会、町内会主催の、高齢者をはじめ様々な年代が参加できるスポーツ、レクリエーション等のイベント(各地区で年 1 回以上実施) ・区民まつりでの「スポーツ体験広場」において、各団体が連携し、高齢者が様々なスポーツを体験できる機会を創出(参加者 858 人)
	<p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体の連携により、高齢者が楽しんでスポーツをする機会を創出した。 ・高齢者については、スポーツを楽しむだけでなく、より効果的な健康づくりの取組

を目指した情報提供や啓発活動が必要である。

4	事故・けが予防のための意識啓発
	関連する達成目標①
	ア 分科会構成団体を通じて、スポーツや野外活動中の事故・けがの事例を集め、予防策を検討します。【体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会、さかえスポーツくらぶ運営委員会、さわやかスポーツ普及委員会、青少年指導員協議会】
	イ 体育協会やスポーツ推進委員連絡協議会等において、予防講習会の開催や、イベント時の準備運動の際に注意喚起等を行います。【同上】
	ウ 事故・けがのデータベースを作成し、広報よこはまやホームページで情報提供を行います。
	【25年度実績】
	ア・区内で発生した運動競技事故の事例を紹介し、予防策について検討を実施 <ul style="list-style-type: none">・こども向けのけが予防の体操「さかえっ子体操」を作成 普及啓発用 DVD を作成・振付師と共に、区内4小学校へ行き、「さかえっ子体操」の普及啓発を実施
	イ・事故・けが予防のための技術・知識を習得するための事故予防講習会を開催（計4回、4団体から延べ253名参加）
	・スポーツイベント時の準備運動の際に、注意喚起を実施
	計20の競技別団体が開催する「区民大会」において実施（対象 約7,000人）
	ウ 分科会の取組内容を紹介する広報紙を発行し、分科会構成5団体の各委員へ配布
	エ 事故防止のために、ウォーキングコースへキロポストを設置
	【自己評価・課題】
	・分科会の取組内容を紹介する広報紙の発行により、各団体の情報共有を進めた。また、事故事例の共有により、事故・けが予防の重要性を改めてと共有するとともに、分科会構成団体に対する事故・けが予防講習会を実施し、具体的な事故・けが予防策について啓発した。
	・各団体において行っている安全配慮に関する情報の共有を進める必要がある。
	・けが予防の体操である「さかえっ子体操」をイベントなどで行うことで、区民に対し、スポーツ時の事故・けが予防の普及啓発を行った。また、栄区民スポーツフェスティバルや栄区民ロードレース大会で準備運動として「さかえっ子体操」を行い、普及を進めた。

交通安全対策分科会

1	交通安全マップの作成と活用
	<p>関連する達成目標①②③</p> <p>ア 危険箇所を把握するため、小学校、保育園、シニアクラブ、安全運転管理者会等にヒアリング調査を行い、交通安全マップを作成します。(おおむね2年ごとに改訂) 【交通安全協会、交通安全母の会、安全運転管理者会】</p> <p>イ 交通安全マップを次のように活用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が交通安全情報を把握し、自主的なこどもの見守りを行えるようにします。 【学援隊、スクールゾーン対策協議会】 ・通学路など小学校周辺の危険箇所について安全策を検討し、対策を講じます。【小学校、スクールゾーン対策協議会】 ・保育園児の散歩コース等の危険箇所について、対策を講じます。【保育園】
	<p>【25年度実績】</p> <p>ア スクールゾーン対策協議会へのヒアリング実施：14校（区内全校） 環境整備地点・事故発生地点の情報に加え、新たに、ヒヤリハット地点を追加し、データの充実を実施</p> <p>イ 関係団体が活用しやすいよう、配布・閲覧等の方法を検討 一部のスクールゾーン対策協議会で更新した交通安全マップを使用</p> <p>【自己評価】</p> <p>ア 環境整備地点・事故発生地点の情報の更新に併せ、関係機関へのヒアリング調査により、ヒヤリハット地点などを把握し、交通安全マップに反映した。</p> <p>イ 一部のスクールゾーン対策協議会では先行して更新した交通安全マップを配布・使用した。紙媒体での配布・使用は使い勝手は良いが、現在データを更新している電子地図データは情報量が多く、紙媒体への印刷には限界があることが課題となった。</p>
2	啓発活動の実施
	関連する目標①②③

	<p>ア 駅頭などで不特定多数の区民を対象に交通安全キャンペーンを実施します。 【交通安全協会・交通安全母の会】</p> <p>イ こどもが安全な歩き方や自転車の乗り方を身に付けられるよう、衝突・巻き込み・死角等の疑似体験を交えた「はまっこ交通安全教室」を小学校で開催します。【交通安全協会】</p> <p>ウ 自転車通行マナーの向上をはかり、こどもには自転車ヘルメットの着用を促します。【交通安全協会】</p> <p>エ 見守り活動の安全誘導講習や保護者向けのチャイルドシート講習会等を開催します。【交通安全協会、交通安全母の会】</p> <p>オ 高齢者を対象に、乱横断や斜め横断の危険性などを学ぶ教室を開催します。また重点地区を設定し、戸別訪問や施設訪問による意識啓発を行います。【シルバーリーダー連絡協議会】</p>
	<p>【25年度実績】</p> <p>ア 各季（期間）の交通安全運動（約7000人参加） （本郷地区での交通安全フェスティバル開催（約1000人参加）など）</p> <p>イ 実施：14校（全校）</p> <p>ウ 自転車マナーアップキャンペーン（250人参加） ヘルメット着用啓発チラシの配布：全小学生、一部保育園</p> <p>エ 安全誘導講習（1回30人参加） 母親教室での講習（11回 約300人参加）</p> <p>オ 高齢歩行者向けの交通安全教室（50人参加）</p>
	<p>【自己評価】</p> <p>ア 各季（期間）の交通安全運動や、地域での交通安全フェスティバルを通じて、交通安全に対する啓発活動を展開した。今後は、交通安全マップを活用し、より効果的な啓発活動を展開していく。</p> <p>イ・ウ・エ・オ 小学生や乳幼児の保護者、高齢者などの交通弱者に対して、対象別の交通安全啓発の取組を実施した。</p>

3	安全な交通環境の整備
	<p>関連する達成目標①②③</p> <p>ア 地域による、自主的なこどもの見守りや高齢者への声かけを行えるようにします。【学援隊、スクールゾーン対策協議会、自治会町内会】</p> <p>イ 事故多発地点や新たに把握した危険箇所において、路側帯のカラー化や道路改築、両側に歩道を設けた都市計画道路等、区民意見も取り入れながら、より良い道路環境の整備を推進します。</p> <p>ウ 道路交通の規制標識、指示標識の補修・整備を行います。</p>

【25年度実績】

- ア よこはま学援隊などを中心として、見守り活動を実施：14校（全校）
- イ 路側のカラー化（440m）、道路改良箇所（56箇所）
- ウ 道路交通の規制標識、指示標識の補修・整備（22箇所）

【自己評価】

学援隊へのPTA参加の促進と交通環境整備（ハードウェア）が困難な箇所については、スクールゾーン対策協議会等においてソフト対策（地域の見守り活動）の強化を図ることが必要。

暴力・虐待予防対策分科会

1	地域で子育てを応援する風土づくり
	<p>関連する達成目標①②</p> <p>栄区全体での子育て支援を推進するため、こんにちは赤ちゃん訪問等既存事業のほか、子育て講演会・区民まつり等の機会にパンフレットやオレンジリボンの配布をし、広く啓発活動を行います。これらの活動全体を通し、地域で子育てを見守る人を増やします。</p> <p>【民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会等】</p>
	<p>【25年度実績】 こんにちは赤ちゃん訪問率 80.1% 399件（H25年度上半期）</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率は目標達成でき、多くの子育て家庭に向け、地域の訪問員との顔つなぎができた。</p>
2	子育てを支援する人材の育成
	<p>関連する達成目標①②</p> <p>区内の希望者を対象に、具体的な子育て支援に関する講座等を行います。また既に子育て支援を行っている方々への情報提供や相談に応じるとともに、ネットワーク化を図ります。</p>
	<p>【25年度実績】 フォローアップ講座 68人参加 子育て応援サポーター養成講座 80人参加（見込み）</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>子育て応援講座では昨年度より対象者を広げ、様々な立場の方同士が知り合い、理解を深める場を設定することができた。またフォローアップ講座において、子育て支援を行っている団体同士で啓発活動の情報交換を実施し、ネットワーク化に向けた横の結びつきが広がってきている。</p>
3	情報発信の仕組みづくり
	<p>関連する達成目標①②</p> <p>ア 地域子育て支援拠点「にこりんく」のホームページ等を活用し、協働で子育てに関する情報発信の仕組みを作ります。【地域子育て支援拠点】</p> <p>イ 広報よこはまやホームページを活用し、ニーズに応じた相談窓口の紹介や子育て役立つ様々な情報を発信します。</p>
	<p>【25年度実績】 ア 通信紙に区の子育て情報を追加し、発行</p> <p>イ 広報よこはまで相談窓口を周知</p>

	<p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄区では平成23年度に父親による乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）の障害事件が発生したことを受け、SBS防止のパンフレットの配布や人形を使った両親教室での啓発などに取り組んでいる。 ・区で行っている子育て家庭向けの講座やイベントを掲載したにこりんく通信をHPに掲載し、情報発信した。また、区と地域子育て支援拠点、地域ケアプラザの共催で身近な地域での子育て講座を実施。子育てに有益な情報を伝えられるよう、地域子育て支援拠点への助言を行い、情報発信の充実につなげた。
--	--

4	<p>育児不安等に関する相談窓口の周知</p>
	<p>関連する達成目標①②</p> <p>養育者や子ども自身、また周囲が危機感を持ったときに、速やかに何でも相談できるような窓口を周知します。特に24時間対応の「よこはま子ども虐待ホットライン」が区民に認知されるよう、PRを行います。【地域子育て支援拠点、民生委員児童委員協議会、地域ケアプラザ等】</p>
	<p>【25年度実績】 区の相談先や主任児童委員への相談等も含め、様々な機会周知を実施</p> <p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て応援講座の中で、参加者に向けて主任児童委員の役割について伝える機会を設けた。また、子ども・家庭支援相談事業のチラシを区内小中学校の新入生全員に配布。11月の児童虐待防止月間でも相談先について周知を行った。 ・紙面等における、相談者への相談窓口周知だけでなく、子育てを見守る地域の住民が相談窓口を知り、相談が必要な方へ、相談先を伝えられるような仕組みづくりが必要。

5	<p>児童虐待の早期発見・対応</p>
	<p>関連する達成目標①②</p> <p>地域の見守り体制の強化を目的に「児童虐待防止連絡会」を開催します。またハイリスク対応のため、専門機関・関係機関が連携して情報共有し、区内関係課へ啓発をし、ささいな兆候も見逃さず、児童虐待の早期発見・対応に取り組めます。</p> <p>【児童相談所、学校、民生委員児童委員協議会、医療機関等】</p>
	<p>【25年度実績】 定期及び個別の連絡会実施</p> <p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て関係機関、団体からなる児童虐待防止連絡会において児童虐待に関する情報を共有し、連携することにより、児童虐待の早期発見に資している。今後はさらに、連絡会での内容が各組織の中で効果的に活用されるように努めていく。 ・要保護児童対策協議会に位置付けられている個別ケース検討会議が関係機関の連携に

	<p>より、開催数が増加している。特に 25 年度は学校関係者との個別ケース検討会議が増えており、それを機に日常的なケース連絡が行えるなど、教育機関との連携が進みつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所と児童相談所や区役所内各課との連携を進める事により、特に児童虐待の初期情報の共有を図ることができ、児童虐待の早期発見につながっている。
--	--

6	子育て支援環境の充実
	<p>保育施設の整備を推進するとともに、乳幼児一時預かりや家庭的保育の実施等、保育資源の有効活用により保育サービスの拡充をはかり、子育て支援環境を充実させます。</p>
	<p>【25 年度実績】 待機児童 0 人（平成 25 年 10 月 1 日時点）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25 年度当初に認可保育所が 2 園新設されたほか、横浜保育室や家庭的保育事業など、区内の認可保育所以外の保育資源も活用し、待機児童数ゼロを継続している。 ・待機児童リバウンドゼロに向けては、区内における保育ニーズを分析・把握していくほか、入所希望者に対して、窓口や電話などできめ細かく対応していく必要がある。

災害安全対策分科会

1	地域防災の担い手の確保・育成
	<p>関連する達成目標①②</p> <p>あらゆる災害に対して、地域で助け合う体制を強化するため、防災の担い手の確保・育成を推進します。</p> <p>ア 震災時に中心となって活動する消防団員を各種イベント・キャンペーンを利用した広報等により増員を図ります。また、減災を目指した地域活動の支援を担っていただきます。【消防団】</p> <p>イ 将来の担い手として、小学生に対する防災教室を開催します。</p> <p>ウ 中学生・高校生を対象に、救命講習を実施し、地域防災拠点における訓練への参加を促します。</p> <p>エ 震災時に地域防災拠点に備えている防災資機材取扱を身につけた地域住民を増員します。</p> <p>【自治会町内会、地域防災拠点、小・中学校、企業、消防団】</p>
	<p>【25年度実績】</p> <p>ア 区民まつりや地域の防災訓練、消防出初式などで団員を募集 消防団員数：289人（H26年1月1日） （参考）23年度 311人、24年度 286人、25年度 289人</p> <p>イ 防災教室の実施：14回（全校）</p> <p>ウ 救命講習の実施校：7校・2校（見込）</p> <p>エ 防災ライセンスリーダー数：271人</p> <p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 広報活動は行っているものの、入団者数は微増にとどまっている。</p> <p>イ・ウ 防災教室や救命講習など、小中学生に向けた啓発・育成は着実に推進されており、地域防災拠点訓練への参加が進んでいる。また、高等学校にも救命講習を実施し、一部地域防災拠点では訓練への参加も行われている。</p> <p>エ 防災ライセンスリーダー数は着実に増加し、25年度末指標を上回っている。</p>
2	ボランティア体制の整備
	<p>関連する達成目標①②</p>
	<p>栄区が被災した場合に備え、地域防災拠点と他都市からのボランティアを受け入れるボランティアセンターとの連携強化を図ります。【自治会町内会、地域防災拠点、小・中学校、企業、消防団、社会福祉協議会、災害ボランティアネットワーク】</p>
	<p>【25年度実績】</p> <p>・ボランティアセンター立ち上げ訓練：実施（見込）</p>

	・ボランティアセンターと関係団体との情報受伝達訓練：実施（見込）
	【自己評価・課題】 ・ボランティアセンターと地域防災拠点等の連携訓練も必要

3	地域防災力の強化
	関連する達成目標①②
	ア 学校や企業、福祉施設など、多様な機関と連携を図った防災訓練の実施や、拠点訓練だけでなく、個別に実施している防災訓練を把握・連携することにより、訓練参加者数を増やします。【自治会町内会、地域防災拠点、小・中学校、企業、福祉施設、消防団等】
	イ 震災時の地域防災拠点初期対応を円滑に行うため、防災訓練において拠点の開設・運営や情報受伝達を重点化し、訓練内容の充実を図ります。【同上】
	【25年度実績】 ア 防災訓練参加者数：12,000人（地域防災拠点における訓練） イ 開設訓練実施拠点数：20拠点
	【自己評価・課題】 ア 学校との連携強化により、児童・生徒参加が増え、訓練参加者は着実に増加している。また、企業や福祉施設などと連携した拠点訓練が一部の拠点で実施されている。 イ 発災～拠点開設までを想定した開設訓練がすべての拠点で実施されている。

4	防災広報の充実
	関連する達成目標①②
	ア 防災に関する正しい情報を区民に周知するため、リーフレット等の作成・配布や出前講座等を実施します。
	イ ①家具類の安全な配置や転倒・落下防止対策、②民間建築物の耐震診断や耐震改修工事支援、 ③液状化について、イベントやキャンペーン等様々な機会を活用して広報を行います。
	【25年度実績】 ア 出前講座：13回実施 その他、栄区防災計画策定に向けた意見交換会7回、説明会1回 イ 啓発活動：1回（防災フォーラム） 家具転倒防止器具設置率 37.1%（H25年度栄区民アンケート）（参考：H24 37.1%）
	【自己評価・課題】 ア 出前講座の他に、栄区防災計画策定に向けた意見交換会や説明会を行うことで、

<p>防災に関する情報を区民へ広報するとともに、住民間での意見交換にもつながり、防災意識が向上した。</p> <p>イ 家具転倒防止器具の設置と合わせて、住宅の耐震化も啓発が必要である。</p>

5	防災情報の普及
	<p>関連する達成目標①②</p> <p>ア 携帯端末を活用し、防災に関連する緊急情報をリアルタイムに伝え、減災行動につなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話等に配信される、「防災情報Eメール」の区民登録者数を増やします。 ・災害緊急情報等をお伝えする「栄区ツイッター」や、横浜市ホームページ上の「横浜市防災情報」の利用を促進します。 <p>イ 携帯電話事業者のサービスを活用し、津波警報や風水害等に関する「緊急速報メール」を配信します。</p> <p>ウ 通信事業者の「災害用伝言サービス」を周知し、発災時の利用が円滑に行われるようにします。</p> <p>エ 災害時の迅速な避難や被害の低減を図るため、様々な被害を想定したマップの活用を促します。（地震マップ、液状化マップ、洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ等）</p>
	<p>【25年度実績】 ア 防災情報Eメール登録者数約 32,252人（25.9%）（H25年12月時点）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>ア 防災情報Eメール登録者数は着実に増加しているが、目標の達成に向け、さらなる周知が必要である。</p>

6	災害時要援護者への避難支援取組の充実
	<p>関連する達成目標②</p> <p>地域における要援護者の把握と避難訓練の実施など、災害時に要援護者が安全に避難できる体制づくりを行います。【自治会町内会】</p>
	<p>【25年度実績】 全自治会町内会中 84%が避難支援の取組に着手している（H25年8月アンケート）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者避難支援について、多くの自治会町内会で話題に挙げられ、話し合いが行われており、全体的には機運が高まっている。 ・活発な自治会町内会では、地域の状況に応じた目標設定がなされ、独自の取組が進められている。一方、必要性を感じつつも進め方が定まらない自治会町内会や未着手の自治会町内会もあり、個別の支援が必要である。

自殺予防対策分科会

1	啓発活動の展開
	<p>関連する達成目標①</p> <p>リーフレットや啓発グッズを作成して、区民まつりや自殺対策強化月間等において配布し、自殺予防対策に関する区民の理解を深めます。【民生委員児童委員協議会、保健活動推進委員会等】</p>
	<p>【25年度実績】</p> <p>リーフレットの作成、配布（H25.12時点 8,941人、H25年度末見込 9,241人）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>リーフレットは、明るいデザインで手に取りやすいと好評。地域の身近な見守りの担い手であるさかえ・ハートフルサポーターや分科会委員の協力による、街頭キャンペーンなどを通じ広く区民に配布することで、理解を深める機会となっている。</p>
2	担い手の育成
	<p>関連する達成目標①</p> <p>①区内在住・在勤のすべての人がさかえ・ハートフルサポーターになることを目指して、基礎研修及びスキルアップ研修を実施します。</p> <p>②医療関係者、理美容師、教育・福祉関係者等気づきと見守りが特に期待される職域の従事者や、警察官・消防士等、未遂者・自損行為に対応する機会の多い職種向けの研修を重点的に展開します。</p>
	<p>【25年度実績】</p> <p>さかえ・ハートフルサポーター（H25.12時点 703人、H25年度末見込 803人）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>当該年度の目標数は達成しており、担い手育成が着実に進んでいる。</p>
3	研修及び啓発活動の効果測定による改善
	<p>関連する達成目標①</p> <p>研修や啓発活動において、区民や保健・福祉専門職等の自殺予防対策に関する知識の習得、行動変容を測定し、研修プログラムや啓発活動等の改善に反映させます。</p>
	<p>【25年度実績】 73.4%→90.6%（H25.12時点）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>各研修時の正答率が向上し、現在の研修プログラムによる効果が上がっている。</p>
4	相談窓口の周知

	<p>関連する達成目標①</p> <p>悩みを抱えている人やその周囲の人向けに、身近な地域の相談窓口や電話相談について、積極的な広報活動を行います。</p>
	<p>【25年度実績】</p> <p>相談窓口一覧リーフレットの配布（H25.12時点 6,834部、H25年度末見込 7,134部）</p> <p>※H25.7～ 栄区いのちところのホットライン開設</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭キャンペーンや栄図書館におけるパネル展などの機会に広く区民に配布した。 ・薬物による自殺未遂が多いことを踏まえ、区薬剤師会の協力のもと薬局での広報を行った。 ・うつ病などの精神疾患を患っている方が、内科など精神科以外の診療科を受診することも多いことから、区医師会の協力で区内の診療所でも広報を行った。 ・リーフレットを見て相談をしたという事例もあり、効果が上がっている。

5	メンタルヘルス対策従事者によるネットワーク学習会の実施
	<p>関連する達成目標①</p> <p>行政、企業、学校等におけるメンタルヘルス対策の関係者や専門職によるネットワークを構築し、事例検討や有用情報の共有、学習会等を実施します。【企業、学校、医療機関、福祉施設等】</p>
	<p>【25年度実績】（H24年度立ち上げ）5回実施（H25.12時点）</p>
	<p>【自己評価・課題】</p> <p>医療機関、福祉施設の関係者からなる栄区メンタルヘルス支援ネットワークを24年度に立ち上げ、定期的に開催し、毎回20人前後の参加がある。参加者は、特定の分野に限らず、生活支援センター、障害施設、地域包括支援センター、医療機関等、他分野の専門職がともに事例検討し情報共有できる場になっている。また、企業については、栄区内の企業に対し、横浜市立大学保健管理センターが主催する「横浜職域メンタルヘルス支援ネットワーク研修会」への参加を促しており、現在1社が参加している。</p>

6	ハイリスク者対策の実施
	<p>関連する達成目標①</p> <p>医療機関や相談窓口において、自殺に傾いている人や未遂者等ハイリスク者に対して早期発見・早期対応を適切に行うとともに、関係機関相互に連携してハイリスク者のケアや支援に取り組む環境整備を行います。【医療機関、生活支援センター、地域ケアプラザ等】</p>

【25年度実績】 医療従事者向け研修の実施（1回 栄共済病院 320名参加）

【自己評価・課題】

栄共済病院で7月に病院職員向けに院内の自殺予防に関する研修を行った。栄区メンタルヘルス支援ネットワークに栄共済病院のソーシャルワーカー・保健師や各相談窓口職員が参加し、スキルアップ及びネットワークの構築を行っている。